

ガバナー 退任のご挨拶

ガバナー 飯 沼 剛

昨年7月当第266地区ガバナーに就任致しましたのは、昨日のように思っておりましたのに、早や退任の挨拶を申し上げる時期となりました。

昨年7月R.I.会長ロルフ・J・クラリッヒ氏のテーマ“TAKE TIME TO SERVE”をご紹介し、皆様と共にこの精神にのっとり奉仕の実践に努めて参りました。

お蔭様をもちまして私の年度も、ほぼ昨年度なみの成績をおさめ、輝かしい歴史と伝統ある当地区の名を恥ずかしくしめなかったことを皆様と共にお慶びする次第であります。これひとえに先輩P.G.のご指導、地区委員及び地区幹事のご協力、そして何よりも地区内全クラブの会員の皆様方のご努力の賜と深く感謝致します。

私は“ロータリーは、原点に帰れ”ということをご申し上げ、それに就いて私の考えを月信No.9に発表致しました。そして更に加えるにロータリーはもっと単純に、もっと楽しくということをご心掛けて参りました。私の意図した10分の1も達成することは出来ませんでした、その方向だけにご賛同を得たものと喜んでおります。いずれ種田次期ガバナーのご指導で開花するであります。

しかしながらロータリーの急速な発展、拡大と共に“ロータリーの奉仕の理想”は次第に観念的に理解されるにとどまり、クラリッヒ会長のテーマ“TAKE TIME TO SERVE”の奉仕の実践に対する真剣な取りくみ方が乏しくなつたように感じられます。

サン・パウロに於ける国際大会の特別講演に於いてマザー・テレサは次のように申しております。

「“TAKE TIME TO SERVE”ということ

は“TAKE TIME TO LOVE”ということであり、愛の実践が奉仕であります。貧しい人びとのごことをもっとよく知るために時間を捧げましょう。知るということはお人びとを愛することになり、愛することはその人びとのために何かをすることになります。何故なれば貧しい人々もすべて私達の兄弟であり、姉妹であるからであります」

もしも真に人々を愛し、真剣に生きようと考えるならば、己れ自身を傷けるまで人びとを愛し、奉仕しなければなりません。愛の、奉仕の実践のない人はロータリアンの資格がありません。

サン・パウロ大会の登録者数は16,242名(日本912名)を数え“ロータリーを通して国際理解と平和”をテーマとして大いに意義がありました。又日伯親善のための今井龍雄氏(大阪)より寄贈された55冊のカラーブックをお届けしました。

退任にあたりただ一つ心残りは、地区分割の決定を種田次期ガバナーに申し送らなければならなかったことであります。

地区分割の経過、考え方は月信No.13に報告致しました通りであります。

地区分割の方法としては基本的にはⅠ～Ⅳ案の4つの案以外にはないと思います。和歌山県下のクラブは大阪市の一部を分割することを希望し、大阪市内クラブはその分割を絶対否とする状態で、第Ⅰ案賛成31R.C.第Ⅱ案賛成55R.C.の結果が出ました。

個々のクラブ、会員の利害でなく、地区の発展強化のためという大局的見地より民主的に決定する以外に解決法はないと思います。

6月20日地区協議会の会長部門で、R.I.への地区分割申請案の作成も諮問委員会に一任

するとの賛成多数を得ましたが、同日の諮問委員会では全員一致の答申案作成にまで至りませんでしたので、最終決定は次期に延期することになりました。

最後にもう一度全クラブの皆様へ厚くお礼

を申し上げます。特に公式訪問に際しましては楽しい例会、有意義な協議会を共に出来たことを心より感謝しています。その際よせられた過分のご芳志に対する感謝のしるしとして財団、米山奨学会へ金一封を寄贈しお礼に代えさせて戴きます。

研究グループ交換についての感想

地区研究グループ交換委員会

委員長 村上 実 (池田)

交換相手 第787地区

ニューハンプシャー及びバーモント州

財団の行う各プロジェクトの中で、この研究グループ交換は比較的理解されにくい活動であるが、その奉仕の効果が国際的に極めて大きいことと、その波及効果が高く、且つ長期的であることが次第に評価され、本年度中に行われた各組のゼネラルフォーラムに於いても、討論テーマとして度たび採用されたことは、大変喜ばしいことであります。

これが委員会活動について、地区全体のロータリー・クラブ各位のご協力を要する活動でありますから、皆さんに広くご理解頂くようお願い致しますと思うのであります。

歴代ガバナーも公式訪問の都度そのPRに非常に努力されておられます。

本年度の交換は、当地区としては6回目であり、従来の交換相手地区は米、豪、カナダ英の各国で、この度も米国との交換であります。大西洋岸の都市を選んだのは初めてであり、従ってお互いの理解が従来少なかっただけに効果は大きかったと考えております。

この度日本から派遣されたグループの帰国後の報告書(地区全クラブに送付済み)を是非お読み頂きましたら、両国の最近の国際理解と友情に関し大変ご参考になると信じます。

日本のグループは彼の地の各ロータリー・クラブ及びその家庭で約40日間に亘って歓待を受け、且つ彼の地方の工業、風土、習慣、

産業等について勉強すると共に、奉仕と友情について尊い体験をなし、多くの友人を得ることが出来、同時にアメリカからのグループも同様の収穫を得て、一同元気で帰国致しました。

彼等が知り得た日本人に対する初めての印象はいずれ彼等の報告書によって、詳細に彼の地区全ロータリアンが知ることになりますが、日本での最後のガバナー主催の歓送会に於いて、彼等の示した感激と喜びは、当第266地区全ロータリアン及びホームステイご家族の方がたの善意と友情に値いする大きなものであったことを、ご報告しなければなりません。

このグループの選出は、極めて公平に且つ慎重に当委員会に於いて行われるのですが、その候補者の推せんは、地区の各ロータリー・クラブのご協力に待たねばなりません。ガバナーから支給される補助金以外の各ロータリー・クラブの経費ご負担も少なくありません。

しかし、その実施による効果は計り知れない程大きく、且つ今後両国の親善と理解に永久に役立つことであろうことを確信致します。

最後に2年間に亘りご尽力頂いた飯沼ガバナー、伊瀨P.G.を始め各地域実行委員及び委員会の方がたに感謝の意を表し、次年度の当地区と豪州第983地区タスマニアとの交換に、当地区ロータリアンの重ねてのご協力をお願いする次第であります。